



～新しいステージへ～ 新春雑感

新春を迎え、皆様には変わらぬご愛顧とご支援をお願い申し上げます。



さて、本年、当院は、増改築工事が完了し、秋には装いも新たに、皆様により充実した医療を提供させていただき体制が整います。駐車場やその他の面でいろいろご不便をおかけしていますが、もうしばらくご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ところで、この事業の成功に向けて目下、諸準備を進めていますが、大切なのは何といたっても職員一丸となった努力です。そこで、新年にあたり、思うところを書き綴ってみました。

「成功の反対は失敗ではなく、何もしないことだ」という名言があります。また、松下幸之助氏は「成功の秘訣は成功するまで続けることであり、失敗したところで辞めるから失敗になる」と言っています。さらに、ダーウィンは「種の起源」の中で、「生存競争に生き残るのは、強い者でも賢い者でもなく、変化に対応する者だ」と言っています。

事ほど左様に、失敗を恐れず変化に対応して行動し続けることが生存の条件といえます。もちろん、これは大変労力のいることであり、場合によっては各方面に痛みを伴うものですが、それを当然のこととして受け入れる感覚を身に着けることが必要になっています。

次に、人が増え、仕事が増えてくると、少なからずセクト主義がはびこり、担当業務以外は我関せずといった風潮が広がってきます。これが高じると、組織は正常に機能しなくなります。一部署の職員である前に組織の職員であるということを自覚して積極的に仕事に取り組む姿勢が必要です。

主体性も重要な要素です。「どうしたらよろしい

ですか」、「ご指示をください」と言われたら誰しも困るでしょう。「こう思いますがどうでしょう」というように自分の考えをしっかりと持った主体性のある人材が求められます。これと似たケースで、何かにつけ言い訳が先行する人も困ります。できない理由を並べたり、できないことを正当化されても困ります。大事なのは理屈のやり取りではなく、できる方法は何なのかを考え実行することなのです。

最後はコミュニケーション力です。個人で仕事はよくできるが、人と折衝して物事を調整していく力が足りないために、仕事が停滞するということがよくあります。大切なのは、個人力プラス調整力ということになります。企画を実行に移す過程で発生する諸問題を関係者とコミュニケーションを通じて調整していくことができる職員は貴重だと思います。

私もそうあらねばならないという思いを込めていろいろ書きましたが、当院は、やっと 30 歳になったばかりで、まだまだ至らないところがあります。そのため、今年には建物の増改築に合わせ、より強固な組織をつくらなければならないと考えています。

どうか、引き続き温かいご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

院長 坂口 昇

粟津中学校へ 新聞及びブックを寄贈

この度、地元の粟津中学校へ新聞及びブックを寄贈させていただきました。これは、「子どもたちが安心して暮らせる環境づくり」をテーマに、(株)朝日写真ニュース社が企画したものです。次代を担う子供たちの心身の健やかな成長を願いつつ、少しでも手助け出来ればと思い企画に参加させていただきました。

